

クローズアップ NGO・NPO

一般財団法人

技能ボランティア海外派遣協会 (NISVA) 通訳付きでますます出やすくなった シニア海外ボランティア

協会設立の目的

技能ボランティア海外派遣協会 (NISVA) は「アジアの開発途上国を中心に日本人シニアボランティア、特に、職長や職工レベルの実践的な技術や技能を生かし、現場レベルで求められるニーズに応える」ことを目的とした団体です。

技術者が現地で指導を行って現地の人々の技術習得を助け、その人々の雇用機会の確保、生計の改善につなげたいと考えても、海外での技術支援活動にはどうしても越えなければならない言葉の壁が存在します。この壁を越えて誰もが参加できるように必要に応じて通訳をつけています。言葉のハンディのために自分の技術を生かす機会を持ってないシニア世代にチャンスを与えるとともに現地の日本語習得者に訓練の機会、就業の機会を広く与える目的です。

技能ボランティア派遣の課題

2005年に開始以来、2014年末までに10か国へ353人の技能ボランティアを派遣しました。国際支援と言えば途上国側はお金と食料、医薬品という物資を期待しますが、そうではなく雇用の確保につながる技術を教える人を派遣するのがNISVAです。指導するプログラムは受け入れ側 (NPO、職業訓練所、学校など) が準備するのです。さらに、ボランティアの住居を提供してくれなければいけません。しかし、このようなNISVAの条件を完全に理解してくれる受け入れ先だけとは限りません。

また、人材派遣ですから人間関係のトラブルは少なくありませんし、行ったボランティアが“現場では話が違う”と不満を持つことも多々あります。苦い経験から、現在では派遣の決定には技術のみならず人物を重要な要素として、家族面談を行い家族の協力姿勢も確認しています。課題は多いのです。

2012年8月から1年間、フィリピンの片田舎で溶接の技術を伝えた播磨國男さんの例を紹介します。

フィリピンでの溶接指導の経験談

私は1999年に北海道の陸上自衛隊を定年で退官し、同じ地の防衛庁 (現在は防衛省) 職員向けの保険業務をしていました。その間、自衛隊員は海外にどんどん出て国際貢献をするようになり、後輩の活躍をみて“OBの私にも何かできないかな”と思ったのが応募した動機です。

NISVAに志を話して会員になってから2年後、チャンスが来ました。フィリピンのパンガシナン州スワル町の職業訓練施設での溶接指導です。2007年からNISVAのボランティア溶接技術指導者が始まって私が5代目になります。NISVAでは渡航費はもちろん生活費、通訳費用、ビザ代を負担してくれます。通訳は、言いたいことの半分も伝わればよし、という人でしたが、助けられました。

今までも苦勞なく自炊をしてきたので、私は現地の食材を使って料理をしました。例えば、金曜日はカレーの日、としてカレーライスを通訳や現

地の友人にふるまって好評でした。住まいは研修センターに隣接するアパートです。冷房も水道も完備されていますが、停電がたびたび起きるのには閉口しました。私は深刻な経験はしなかったのですが、豚の屠殺場が近くにあるため、明け方の豚の悲鳴にびっくりした先輩がいたようです。

現地に入ったときは先代のボランティアが帰国した後だったため、手探りの指導となりました。私は、溶接スキルだけではなく、技術を第一とし

ながら第二に規律、第三に安全管理を徹底して教えました。フィリピンで溶接を教える訓練センターは各地にあります。規律や安全管理の指導が未熟です。



屋外で溶接器具の指導をするシニアボランティア（右端）

例えば、現地のインストラクターは手袋もゴーグルもつけずに溶接の指導をしています。ですから生徒は規律と安全の指導になかなか耳を貸しません。電気の危険性も知りません。そのため、“ここは絶対に素手で触らない、準備を完全にしてスイッチを最後に入れる、そして最初に切って後処理をする。溶接の器具は必ずホルダーにかけて保管する”という、私が自衛隊で教えられた基本を、口を酸っぱくして指導しました。また、生徒はいつ来るかわからないバスを待って通学しますが、敢えて朝8時の時間を厳守させました。厳しく叱ったこともありましたが、彼らについてはついてきてくれました。訓練期間が終了し、無事に生徒を送り出したときの気分は、やはり良いものです。

私は、2～3か月を一期間として3期間、73人を教えました。訓練期間終了後は、生徒たちは国家試験を受けて溶接の国家資格を取ります。この資格があれば国内の造船所の就職や海外の出稼ぎが可能になります。卒業した生徒の国家試験合格率は80%を超えています。

造船所の関係者が、私が教えていたスワルの職業訓練センターの卒業生のことを“何よりも安全作業の意識が高いので安心



溶接研修終了（前列中央がシニアボランティア）

して使える”と言っていると聞いたときはとてもうれしく思いました。

13期生が終了したときには、記念にマンゴーの木を植樹しました。“君たちも卒業後はこの木のように大きく成長してほしい”との思いです。

生徒に面接で志望動機を聞くと“金を稼いで家族を楽にさせたい”と異口同音に言います。私は胸を打たれました。昭和30年代の我々がそうでしたから。しかし、生徒の中には研修に来る60円のバス代が払えず断念した者もおります。かわいそうですが我々にはどうしようもない現実です。

お金や物を渡すのであれば使ってなくなりまして。しかし技術は違います。使えば使うほど上手になってきて“よしもとやろう”という意欲がわきます。

技術だけでなく規律や安全管理を教えることがとても大切であることや、人を育てる自衛隊の教育の素晴らしさを改めて痛感しました。海外でのボランティア活動を志す方々には、自分の経験や思いがそのまま通用する、と声を大にして申します。



植樹するシニアボランティアと町長と生徒達



新校舎に全員集合

■ おわりに

自衛隊では退職3年前から退官後の再就職に向けて講習を行っています。帰国後、播磨國男さんには自衛隊OBのボランティア志望者のリクルートをお願いしています。また、2015年4月からは、自衛隊の退職者向け講習会で播磨國男さん自身の国際ボランティアの経験を話すことを依頼されたそうです。画一的な就職指導でなく退職後にはさまざまな活動の場があることを伝えたい、という自衛隊のお考えがあるからだと思います。NISVAの活動の意義を理解していただけた、と誇りに思っています。

会員申し込みは、NISVAのホームページ (<http://www.nisva.org/>) から行うことができます。